

## 平成21年度宇都宮市男女共同参画審議会会議録(概要)

日時：平成21年7月30日 午後1:00～

場所：市役所14B会議室

**委員** 年次報告書には新規事業についてあまり触れられていない気がする。市民にとっては新規事業がどのようなになったか気になる場所であるため、年次報告書で報告してもらいたい。

**事務局** ファザーリング推進事業など、年次報告書で紹介している新規事業もあるが、ご意見を踏まえ、追記できる事業については記載していきたい。

**委員** 年次報告書には、各種事業の参加者の総数を記載しているが、男女共同参画という視点を踏まえ、男女の参加比率を記載してもよいのではないのか。

**事務局** 男女の参加比率について、把握できている事業については積極的に記載していきたい。

**委員** 着手できなかった事業や目標値に達しなかった事業については、その理由を記載した方が市民は納得するのではないのか。

**事務局** 事業実施にあたり、他の関係機関と連携を要する事業等について着手できなかったものがある。また、既存事業を継続して実施しながら、新規事業に着手するため、手がつけられなかった事業もある。第2次行動計画の計画期間である5か年のうち、できるだけ早期に着手できるよう、努力していきたい。

**委員** 定額給付金の実施にあたり、宇都宮市はDV被害者に対する定額給付金同等の給付事業を全国に先駆けて着手したが、それについては記載しないのか。県内市町にも波及効果があったと思う。

**事務局** DV被害者に対する定額給付金同等の給付事業については、平成20年度から検討してきたが、給付事業に着手したのが今年度であるため、平成21年度の年次報告書において報告していきたい。

**委員** 第2次行動計画の主要施策の柱にワーク・ライフ・バランスとDV対策を掲げたが、ワーク・ライフ・バランスについては、年次報告書にも記載されており、世界的な経済危機から、その大前提となる雇用が危ぶまれている。雇用が

安定しなければワーク・ライフ・バランスの推進どころではない。宇都宮市だけの問題ではなく、社会全体として雇用の安定に向けた何か対策はできないものか。今まで私たちがワーク・ライフ・バランスの推進に向けて取り組んできたこと以外の方策はないものだろうかと感じている。

**事務局** ワーク・ライフ・バランスの意識啓発に向けて、経営者協会などと連携しながら事業者訪問を実施し、各事業所の社長や人事担当者とその意義等について話をしている。また、各事業所が取り組んでいる好事例を教えてもらっている。

この他、昨年度からは、労働局や県、経済団体、労働団体と意見交換会を実施した。今後は、勤労者との対話なども進めていきたいと考えている。

また、男女共同参画課だけでなく、子ども部や経済部と連携し、市全体がワーク・ライフ・バランスの視点をもって事業を推進できるように取り組んでいきたい。

**委員** 「宮っこフェスタ」や「とくめく未来へ参画会議」など、男女共同参画の意識啓発に積極的に取り組んでいると思う。自分たちがやれるだけのことは努力しているということを PR する必要がある。

**会長** ワーク・ライフ・バランスの推進については、世界的に厳しい経済状況における大きな課題であるため、審議会での意見なども踏まえながら、より充実した事業を実施していただければありがたい。

**委員** 経済状況の悪化を受けて、働きたくても働けない学生や、内定を取り消されてしまった学生についての話をよく耳にする。生きていくためには、働かなければならない。不景気といわれる時代だからこそ、明るく元気で生活できるようになればいいと思うし、そのためにはまず、雇用の安定が必要であると思う。

**会長** 雇用安定に向けた整備に向け、他の部門と連携しながら取り組んでもらいたい。

**会長** DV 被害者への定額給付金同等の給付事業はいつまで実施する予定か。

**事務局** 5月18日から11月17日までの6か月間である。

**委員** 16頁の「男女共同参画の視点に立った学校教育の推進」のなかで、出前講座の推進と、小学校5年生を対象とした教育参考資料「かがやき」の活用方法について教えて欲しい。

**事務局** 出前講座については、男女共同参画啓発団体と協働で実施している。また、「かがやき」は家庭科の授業や宿題などで活用している。

**委員** 男女共同参画教育参考資料「かがやき」は、学校で大変重宝している。特に 5 年生の家庭科の授業や学級指導において活用している。噴出しがあったり、書き込み式になったりしているのので、子どもたちはとても興味深く読んでいます。子どもの頃から男女共同参画意識を啓発していく必要があると感じているが、このような啓発誌を活用し、家庭でも親子でワーク・ライフ・バランスなどについて考えることができればよいと思う。

**委員** 現状値をよく見ると、指標のとり方を工夫した方がよいと思われる事業がある。活動指標は 1 つに拘らず、複数の活動指標で評価してもよいのではないかと。

また、年次報告書は誰に対して発行するものなのか。進行管理という視点では足りないと思うし、市民に対する年次報告書としては難しいと思う。全体を読まなくては結果が分からないというのではなく、ぱっと見た感じで、全体の評価や取組成果が分かるようであれば、市民は興味を持たない。私は市民に対する年次報告書でなければいけないと思う。ワーク・ライフ・バランスについてはなかなか上手くいかなかった、DV は一生懸命取り組んだ、男女共同参画の意識啓発は頑張ったけれども結果がついてこなかったなど、市民が分かりやすい表記になるよう工夫して欲しい。年次報告書は、今後も継続して作成していくものであることから、ぜひその見せ方を工夫してほしい。

**事務局** 年次報告書の見せ方について工夫を凝らすとともに、広報紙などで市民に広く周知する際には、できるだけポイントを分かりやすく見せることができるよう、表記方法について工夫をしていきたい。

**委員** ワーク・ライフ・バランスの取組については、数値としては良い結果にはならなかったかもしれないが、年次休暇を取得しやすくなった父親たちが学校教育に参加してきているという良い現象も起きている。不況の中、ワーク・ライフ・バランスの推進は確かに難しい環境にはあるが、このピンチをチャンスに変えていくという考え方に切り替え、ワーク・ライフ・バランスを実現するきっかけにしていければと考えている。